

生息(発生)場所へのドライ施工を実現

業務用炭酸ガス製剤

スプレーマン

(エトフェンプロックス製剤)

◎ 対象害虫

ノミバエ、チョウバエ、ショウジョウバエ、
ユスリカ、チャタテムシ、タバコシバンムシ成虫、
ノシメダラメイガ、コクゾウムシ、
ノコギリヒラタムシ成虫、ヒメカツオブシムシ

スプレーマンは、安全性と効力で高い評価のエトフェンプロックスを炭酸ガスに溶かし込んだ製剤で、ドライであること広範囲を短時間で施工できる利点を生かし、貯穀害虫や小バエ駆除用として長年にわたり愛用されています。スプレーマンは、現場の状況を熟知した専門家が、生息(発生)場所を中心に噴霧するため、生息場所から施設全体に薬剤が広がります。この施工による殺虫成分の濃度勾配が、薬剤の効果を最大限に引き出します。従って、施設の中心から薬剤が広がる燻煙剤などと比べ高い効果が得られます。



■ 特長

⚡ 極めてドライ

界面活性剤、水、ケロシンなど残留するものを使用していないため、濡れ等の汚染が少なくドライな施工が可能です。

⚡ 優れた拡散性

高圧で噴霧されるため、薬剤が遠くまで届きます。また、噴霧された薬剤は超微粒子(0.3~2 μ)となるため拡散性に優れ、しかも4時間程度浮遊するので、広範囲に隙間等までも十分に薬剤が行き渡ります。

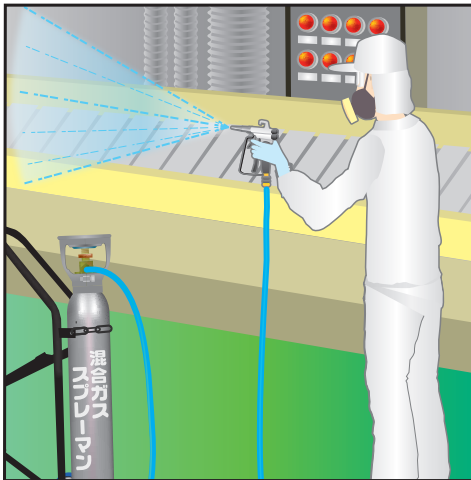
⚡ 生息(発生)場所への噴霧

スプレーガンで施工するため、生息場所への直接噴霧します。これにより、害虫に十分な薬量を暴露させることが可能です。

⚡ 高い安全性

有効成分はピレスロイド様殺虫剤であるエトフェンプロックスで、安全性が非常に高く、ピレスロイド系殺虫剤のような刺激もありません。
また、水棲生物に対する毒性がピレスロイド系殺虫剤に比べ、低いのも特徴です。(農薬の魚毒性分類ではB類に相当)

■ 施行



現場を熟知した作業員が、スプレーガンで噴霧するため、噴霧場所の状況に応じて噴霧量や噴霧方法を調整できます。これにより、害虫の生息(発生)場所から薬剤の濃度勾配が出来きるので害虫に十分な量を十分な時間暴露させられるため高い駆除効果を実現します。

薬剤は、時間とともに施設全体に広がるので、施設内で活動している飛翔性の成虫も駆除されます。

さらに、針ノズルの使用により機械内部など通常の空間処理では薬剤が届きにくい場所へも薬剤処理が可能です。

■ 対象害虫と効果

対象害虫	噴霧量	処理時間
ノミバエ・チョウバエ・ユスリカ	1 g/m ³	30分間
ショウジョウバエ	3 g/m ³	1時間
チャタテムシ・タバコシバンムシ成虫・ノシメダラメイガ・コクゾウムシ・ノコギリヒラタムシ成虫・ヒメカツオブシムシ	5 g/m ³	4時間

■ 試験結果

供試虫	効果確認時間	KD率
タバコシバンムシ成虫	4時間後	100%
ノコギリヒラタムシ成虫	4時間後	100%
ヒメカツオブシムシ成虫	4時間後	100%
ヒラタチャタテムシ成虫	4時間後	100%
コクゾウムシ成虫	48時間後	100%

■ 成分組成

エトフェプロックス	1.0% (w/w)
アセトン	5.0% (w/w)
液化炭酸ガス	94.0% (w/w)

■ 安全性

1. エトフェプロックスの哺乳動物に対する安全性

- 1) 急性経口毒性：ラット LD50 >42,880mg / kg
- 2) 急性経皮毒性：ラット LD50 >32,160mg / kg
- 3) 急性吸入毒性：ラット LC50 >5,900mg / kg

2. エトフェプロックスの環境に及ぼす影響

- 1) 魚毒性：コイ稚魚 TLm48 5.0ppm
金魚 TLm48 1.7ppm

3. アセトンの安全性

- 1) 急性吸入毒性：ラット LC50 >32,000mg / kg
- 2) 許容濃度：日本産業衛生学会 200ppm
ACGIH 500ppm

※5g/m³噴霧時のアセトン濃度：約100ppm

4. 炭酸ガスの安全性

- 1) 日本産業ガス衛生学会及びACGIHの許容濃度 5,000ppm
- 2) 労働安全衛生法規則上の立入禁止濃度 15,000ppm以上

※5g/m³噴霧時の炭酸ガス濃度：約3,000ppm